

香川大学創造工学部の 国際交流の取組み

令和2年度版





◆◇◆ はじめに ◇◇◆

香川大学創造工学部では、教育目標の一つに「国際的に活躍できる人材育成」を掲げています。それを実現するために、様々な国際交流・外国語習得の機会を提供しています。入学直後のガイダンスでもお知らせしておりますが、高校生の皆さんに、入学前から知っていただくことにより、大学生活への夢をふくらませて、積極的にチャンスを活かし、世界に羽ばたく人材として将来活躍してほしいと願っています。



◇◆ 目 次 ◇◆

1. 創造工学部の協定校
2. 協定校訪問
3. 語学留学・海外研修
4. 英会話クラス・English Cafe
5. 国際インターンシップ
6. 創造工学部・工学部の留学生

◆◇◆ 1. 創造工学部の協定校 ◆◇◆

香川大学は約80校の海外の大学と協定を締結しており、そのうちの以下の26校は創造工学部が交流をしている協定校です。協定校とは、学生交流プログラムを締結していて、学生の相互派遣や、短期留学をすることができます。



ヨーロッパ：

【フランス】

サボア・モンブラン大学
国立高等精密機械工学院 (ENSMM)
フランシュ・コンテ大学
コンピエーニュ工科大学
リモージュ大学
ESIEE Paris
パリ高等機械大学院 (SUPMECA)
アルピ鉱山大学

【ドイツ】

ボン＝ライン＝ズィーク大学
ミュンヘン工科大学

【フィンランド】

ラップランド応用科学大学

【スウェーデン】

ハルムスタッド大学

アメリカ

トレド大学

オーストラリア

キャンベラ大学

アジア：

【韓国】

ハンバット大学
漢陽大学

【中国】

電子科技大学
ハルビン工程大学
長春理工大学
武漢理工大学
北京師範大学
北京理工大学
天津理工大学
陝西科技大学

【タイ】

チェンマイ大学

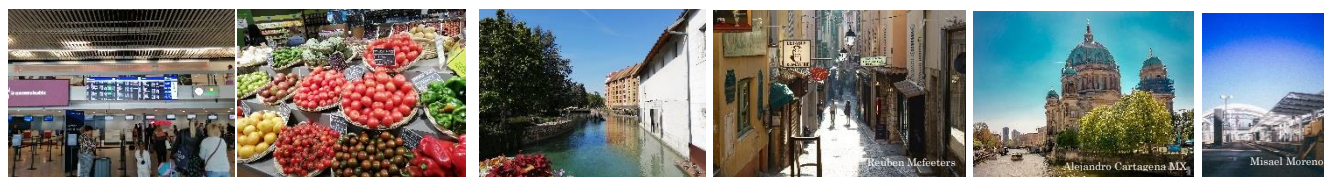
【ネパール】

トリブバン大学

【台湾】

国立嘉義大学





◆◇◆ 2. 協定校訪問 ◇◇◆

平成20年度(2008年度)から開始した協定校訪問は、できるだけ早い時期に海外経験をすることで、知的好奇心を刺激し、英語の重要性を認識してもらい、大学生活の糧となる向学心・向上心を持ってもらうことを目的としています。海外の協定校や研究所、企業など、普通の旅行では訪れることのできない企業や大学を訪問し、協定校の学生と交流します。特に、大学に入学したばかりで海外渡航経験のない1年生におすすめです！

【協定校訪問の訪問先】

- | | | | |
|------|------|---------------------|-----------------------------|
| 第1回 | H20年 | フランス・スイス | サボア大学・欧州原子核研究機構・S N R |
| 第2回 | H21年 | 韓国 | 南ソウル大学校・ハンバット大学・韓国海洋大学校 |
| 第3回 | H22年 | フィンランド | ロバニエミ応用科学大学・地元企業・図書館 |
| 第4回 | H23年 | ネパール | トリブバン大学 |
| 第5回 | H24年 | ドイツ | ミュンヘン工科大学・ボン＝ライン＝ズィーク大学・研究所 |
| 第6回 | H25年 | タイ | チェンマイ大学・メチョー大学・日系企業 |
| 第7回 | H26年 | スウェーデン・デンマーク | ハルムスタッド大学・デンソー・VOLVO 博物館 |
| 第8回 | H27年 | アメリカ | トレド大学・フォード博物館・デトロイト美術館 |
| 第9回 | H28年 | 台湾 | 嘉義大学・台湾大福(ダイフク)企業・台南地域寺院 |
| 第10回 | H29年 | フランス | アルビ鉱山大学・エアバス |
| 第11回 | H30年 | 中国 | 北京理工大学・天津理工大学等 |
| 第12回 | R1年 | フィンランド | ラップランド応用工科大学・サンタクロースヴィレッジ |
| 第13回 | R2年 | ネパール | トリブバン大学(予定) |

参加した学生の感想



今回のプログラムに参加することができて、非常に多くの経験を得ることができました。通常の観光では、研究所や企業の見学はなかなか出来ないことですし、サボア大学の研究室を見て回るのはこのプログラムならではのようです。企業見学も知らないことを色々知ることができ、これから進路を決めていかなければいけない私には非常に参考になりました。しかし、一番興味を持ったのはサボア大学で行われている研究内容でした。これから、卒業研究を行っていかねばならないからかもしれませんが、同じ工学系の大学でどのようなことが、どのように行われているかを見ることが出来たのは刺激にもなり非常に良かったです。

1週間はあっという間で、もっと韓国にいたいと思うぐらいとても1日1日が充実していた。今回の訪問では韓国の文化、協定を結んでいる学校のことを学ぶことができた。そして何よりも国際交流の楽しさを知れた。伝えたいことを伝えられなかった悲しさ、英語で伝えられた時の喜び、両方感じる事ができた。この経験をバネにし、これから英語の勉強を一生懸命していこうと思う。そして来年の今頃には、もう悲しさを味わうことなく日常会話がスラスラできるようになっておきたい。

プログラムに参加したのは、外国がどんなところか見てみたかったのと、英語の力を少しでもつけたかったからです。ロバニエミ応用科学大学は、キャンパス自体が大きく、食堂はバイキング形式で、デザインにもこだわっていました。プログラムに参加して、特に英語を聞き取る力が足りないということを実感しました。また、実際の会話では相手の表情なども関係してくるので、リスニングテストとは少し違うとも思いました。これからも、外国に行ける機会があればその機会を必ず活かしたいです。



ネパールでは、全く日本語が通じませんでした。不便さよりも、初めての海外ということで、新鮮さを感じて、不思議な気持ちになりました。協定校には僕達が学校で使う実験器具もありましたが、ガラスが割れて修理されていない場所もあり、日本の学生がどれだけ恵まれた環境で勉強できているかを実感しました。ネパール人の学生と一緒にいましたが、うまくコミュニケーションがとれず、ボディーランゲージで会話をしました。その時、もっと英語を勉強しておけばよかったと痛感しました。

今回の協定校訪問が、私にとっては初の海外渡航でした。初めての海外ということで不安や心配な事もあったけれど、それ以上に新しい経験が出来ることに大きな期待がありました。ヨーロッパに到着すると今まで見たことのない世界が広がっていて、とても感激しました。また、協定校訪問ということで、大学や研究所への訪問、現地の学生との交流など普通の旅行とは異なる体験をすることが出来ました。私にとって、この2週間の海外滞在は自分自身のステップアップとして大きな意義があったと思います。



人生で初めて海外へ渡り、日本語が通じない中で乏しい英語力を駆使しながら、様々な人々に出会い、様々なものを見て、人と関わるうえで重要なことをたくさん吸収することができた。優しさをもって、気遣いの精神をもって相手と関わる。コミュニケーションをしたい、相手と話をしたいという気持ちがあれば、交流することは可能であるということ。また、タイの学生さんたちが勉学に意欲的に取り組んでいる姿を目の当たりにし、私も頑張ろうという気持ちが湧き上がると共に、彼ら彼女らに引き離されていかに努力しなくてはならないという気持ちになったこと。この協定校訪問における経験は、私の人生において次へと進む大きな契機となったことを実感している。

コアスケジュール7泊と個人旅行9泊を経験して、本当にたくさんの事を学び、多くのことを感じ取ることができた。自分は建設学科専攻であり、海外のインフラなどにも興味を持ってこのプログラムに参加したのだが、「日本は進んでいる国だ」とか「日本が一番いい国だ」という自分の中の勝手な概念が覆された。確かに、多くの場面で日本の方が便利だとか優れているような部分は多々あった。しかしそれ以上に、景観が整えられた街作りや、街中に多くある美しい公園や広場、そして、そこで子供からお年寄りまで各々が自分の時間を好きに過ごす様子を見て、「便利さ」以上に大切な事を北欧やドイツの人々は大事にしているように感じた。この旅行で感じた多くの感覚を、今後長い時間を生きていく中で思い出していきたい。



この訪問を機に、工学分野、英語、また臨機応変に問題に対処する力をもっと学びたいという気持ちが強くなった。アメリカは、建物も道路も文化もそこに住む人も全く日本とは異なり、みるものすべてが私の世界観を広げていったように思う。ただの旅行では決してできない貴重なこの経験を、これからの勉学と研究に活かしていきたい。

先に学生が台湾に行き、後から先生方と合流するということが不安もあった。小さいころに海外に行ったことはあるが覚えていないので、記憶に残っている限りでは、この旅が初めての海外旅行であった。初めてにしては長期にわたる旅であったので、最初は慣れず、カルチャーショックを痛感した。また、日本の住みやすさが改めて分かった。しかし、台湾での旅行に、次第に慣れてきた。初めは安さに不信感をもっていた水でさえも普通に飲めるようになった。自分の中で一番心に残っていることは、台湾の方のあたたかさだ。もし彼らが日本に来たときは存分にもてなしたい。そして、今よりも語学や日本文化、世界史を学びたいと強く思った。特に嘉義は、また行きたいと思える素敵な街だった。コアスケジュール前後を含めてホームステイも経験できたし、6人のメンバーでなんとか11日間やり遂げることができ、嬉しく思う。



滞在した4日間を総じて、とても手厚い歓迎を受けたと感じる。アルビ鉱山大学・香川大学の両ネームが入ったメモ帳を始め、ネクタイ、IDストラップなどの数々の土産をいただいた他、素晴らしいランチ・ディナーを訪問先の教授陣と共にする機会をセッティングしてくださった。

今回の協定校訪問プログラムに参加したことにより、工学部に入学したという実感を改めて得ると同時に、これから進むであろう道に対して、さらなる興味を抱くことができた。短い期間ではあったものの、一生忘れることのない貴重な経験になったことは間違いない。

◆◇◆ 3. 語学留学・海外研修 ◇◇◆

香川大学では、夏休みや春休みの長期休暇を利用して、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドでの英語の語学留学ができます。1年程度の長期で語学留学をしたい人の相談も随時受け付けています。また、香川大学が奨学金を支援して1年留学する「ネクストプログラム」も始動しています。香川大学では、フランス語やドイツ語などの短期語学研修も実施しています。



私は2014年10月4日から10週間、英語の勉強のために、オーストラリアのブリスベンにある Queensland University of Technology International College に留学しました。留学を思い立ったきっかけは、学部4年生の時に就職活動をして、自分が思っていた以上に、現代の日本社会では英語の重要性が高いと感じたからです。

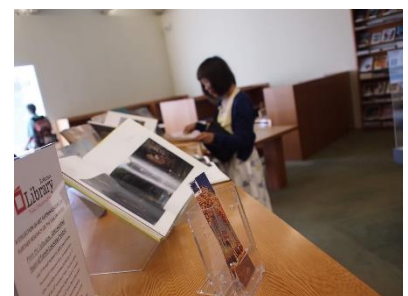
私が滞在していたブリスベンは、オーストラリアの東部（クイーンズランド州）に位置し、気候は日本より少し乾燥が強いと感じましたが、ほとんど変わりませんでした。また、高層ビルが街の中心部に集中していて、少しそこを離れれば閑静な住宅地が点在しており、過ごしやすい街でした。

この留学からは、英語だけでなく様々なことを学びました。文化の違いはもちろんのこと、日本から飛び出して日本を見ることで、日本に対する価値観も変わりました。これも、世界中から集まる学生やオーストラリアの人々と共に生活し、日常的に交流したからこそ見てきたもので、日本で過ごしているだけでは絶対に学べないものだと思います。この留学で苦労する部分も色々ありましたが、得られたものはとても多く、留学して本当によかったと心から思っています。

2014年9月6日から2週間、高松市の姉妹都市であるフランスのトゥール市で、青少年親善研修生派遣事業に参加しました。

私は、大学院で観光に関する研究を行っており、その土地の文化を観光客の方にいかに知っていただくかを日々考えていました。今回は、トゥール市の方々に高松市を知っていただくために、高松市内を自分の足でまわり、栗林公園、玉藻公園、屋島、うどんなどの動画を撮影し、高松を映像コンテンツで紹介するシステムを開発しました。トゥール市では、高校生、一般の方、市役所の方など、多くの方々の前で高松市を紹介する機会を与えて頂きましたが、どの方も興味を持って聞いて下さり、中には高松市に是非行ってみたいと言ってくださる方もおり、私の紹介で高松市に興味を持ってもらえたことがとても嬉しかったです。

今回の研修で過ごした2週間は本当に充実しており、様々なことを経験し自分の成長に繋げることができたと感じています。この経験を今後の学習や研究に生かし、グローバルに活躍できるエンジニアになれるよう頑張りたいと思います



◆◇◆ 4. 英会話クラス・English Cafe ◆◇◆

実践的な英語を楽しみながら身につけるために、課外クラスとして、ネイティブの先生による少人数制の英会話クラスを実施しています。英会話学校に行かなくても、創造工学部で英会話を学ぶことができます。

また、香川大学幸町キャンパスの中心にシンボルとして立っている2階建てのガラス張りの建物に「オリーブスクエア」があり、英語などの会話を楽しめる「Global Cafe」があります。創造工学部でも、通常、隔週水曜に「English Café」をランチタイムに実施しています。



◆◇◆ 5. 国際インターンシップ ◆◇◆

外国の研究室で2～5ヶ月間実践研修する『国際インターンシップ』をフランス、ドイツ、フィンランド、スウェーデン、オーストラリアの協定校と相互に受入れを実施しています。

皆さんがこれから学ぶ工学の知識は、世界で通用する知識です。それを体感できるのが、この国際インターンシップです。

大いなるチャレンジですが、海外でいろいろな経験を積むことで、飛躍的な成長が期待できます。派遣は大学院生が中心となってきていますが、学部生も専門性と英語力とチャレンジ精神があれば、3・4年生で国際インターンシップを経験することができます。

私は、フランスのサボア大学 LISTIC 研究所で5ヶ月間の実習を行いました。実習内容は、LISTIC 研究所で行われているプロジェクト「モーションキャプチャデバイス (Kinect) を用いたロボット制御」で使用されるソフトウェアの改善と開発環境の再構築でした。モーションキャプチャとは、全身の動きや手ぶりなどのジェスチャーを検知し、パソコンの操作に反映させるユーザーインターフェース技術で、この装置を用いてロボット制御を行うソフトウェアの開発に取り組みました。自分の研究とは異なる分野で、今まで経験したことのないプログラミング言語を使っただけの作業もあったため、時には思うように進まないこともありました。また、技術英語や専門用語を正確に把握することができず、与えられた課題を誤って解釈してしまうこともありました。しかし、ラボのメンバーや先生にアドバイスを頂いたり、自分で課題を見つけ新しい知識を勉強したりして、それらの課題を乗り越えることができました。この経験を通じて、専門知識を身につけることができ、コミュニケーションの重要性や仕事の進め方など非常に多くのことを学ぶことができました。

フランスでは、仕事とのメリハリをつけるために、休日や余暇をしっかりと楽しんでいるという印象を受けました。私は、休日や長期休暇には、友人とアヌシーでサイクリングや山登りをしたり、フランス国内やヨーロッパの様々な国へ旅行をしたりしました。今回のインターンシップが初めてのヨーロッパであったため、実際に足を運び肌で感じる文化・習慣・景観の違いはとても刺激的で、良い経験になったと感じています。

私は今回のインターンシップを通じて、自分が想像していた以上に多くのことを学ぶことができ、たくさんの友人を作ることができました。海外での長期滞在は、苦労することも多くありましたが、サボア大学の職員の方や友人の支えもあり、無事にインターンシップを終えることができました。この経験で学んだことを、これから社会人として仕事をしていく上でも、私生活の面でも活かしていけるように更なる努力をしていこうと考えています。

また、毎年7月頃に国際インターンシップ交流会を開催しています。

国際交流に興味のある学生の皆さんや、学内・学外から国際交流に関わる人たちが集い、交流しています。



◆◇◆ 6. 創造工学部・工学部の留学生 ◇◇◆

創造工学部・工学部・工学研究科で、約50名の留学生が勉強をしています。

留学生の出身国は中国が一番多く、韓国、マレーシア、フランス、ドイツ、台湾、ベトナム、バングラディシュ、セネガルなどからも来ています。

異なる文化を持つ留学生が集まることでキャンパスの国際色が強まります。留学生は、自国語、英語に加え日本語を学び、日本での学生生活をがんばっています。そんな留学生との交流も大学生活の醍醐味です。

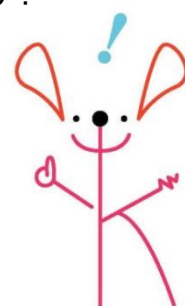
創造工学部では、毎年3月に留学生との交流会を開催しています。留学生を中心に、国際交流に興味のある学生の皆さんや、学内・学外から国際交流に関わる人たちが集い、交流しています。



◆◇◆ おわりに ◇◇◆

香川大学創造工学部では、いろいろな国際交流の機会があり、楽しみながら視野を広げることができます。

大学生のうちにぜひ海外へ行って、日本と違う景色を見て、価値観に触れましょう！
そして、大学時代に、将来にわたって使える英語力と国際性を身につけましょう！





“Twenty years from now you will be
more disappointed by the things
you didn’t do than by the ones you did do.
So throw off the bowlines.
Sail away from the safe harbor.
Catch the trade winds in your sails.
Explore. Dream.
Discover.”

Mark Twain

「今から 20 年後にきみは、
やったことよりもやらなかったことに失望するだろう。
だから、綱を解き放ち、船を安全な港から出そう。
貿易風を帆にとらえて。
探検しよう。夢を見よう。
発見しよう。」

マーク・トウェイン

